

「時間がない」とは言わせない

Time is Something to be Made

より奥深く話を掘り下げていき、研究室内の横糸を入れていくこと新たな目標に掲げた今年度の都市デザイン研究室マガジンの第一弾としては窪田先生へのインタビューです。4人の子育てと研究・仕事をどのように成立させているのかから、新しい研究室設立の思いまで、とことん聞いていきます！

取材・編集：高梨



窪田先生の寝食

高梨…窪田先生の生活に関してはいろいろと学生の中でも不思議に思っていることが多くあります、いくつか聞かせてください。夜遅くにメールが届いたのに朝一番に学校で見かけますが、ちゃんと寝ているのですか？

窪田先生（以下敬称略）…案外寝てますよ。寝るときは早くから寝てますし、すきをついて寝てます。ま、皆さんも一緒でしょ。

高梨…後はご飯をよく平気に抜かしているのを見かけるんですが、大丈夫ですか？

窪田…空腹感をコントロールできるのは特技かも。午前と午後の仕事の事情で昼食をいただく時間が無いときは多々ありますが、あんまり気にならないんですよね。逆に、飲み会等で美味しいお料理を余らせてしまうのは忍びなくて、減茶苦茶食べることもできます。

家でも、美味しくできたときは子供たちがたくさん食べるので、自分の分が少なくなったり、いまいちなときは子供たちはあまり食べないのですが（全てが態度に出てしまう、正直！）残したくないので、高校生の息子の2倍食べてしまうときも。考えてみれば、こうした日々の鍛錬の成果だったんですね、私の特技は。

ご出産、ご妊娠について

高梨…後は聞いて一番おどろいたのが、4人目お子さんを生んだ前日・翌日に学校にいたということですよ。本当ですか？

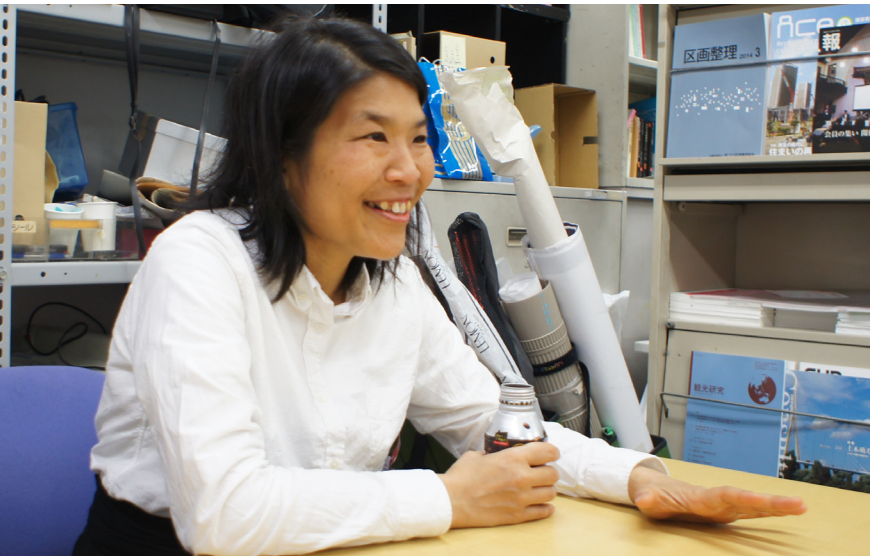
窪田…前日はあったかもしれませんが、翌日に学校にいた、というのはいないです、病院にいました。早く退院したいのですが、とお医者さんに相談したら、2泊3日はしてください、と言われました。

ところで妊娠とか出産については、色んな話が巷でもありますが、武勇伝的なものが多いと感じていまして、危険だと思っています。マガジンの主旨ではないかもわかりませんが、もう少し。

長男の妊娠中は、自分自身は全く元気だったのですが、建築事務所でバイトをしていまして、周りにはヘビースモーカーも多くて、そんな中で泊まったりもしていました。

こういうのは絶対駄目です。小さく生まれてきた長男は本当に愛おしく、次からは気をつけました。また最初の子育てが留学中と重なったのが非常に良く、長男の状況を優先できました。少なくとも1歳になるまでは突然の発熱や止まない夜泣きなど、どうしようもないことが多いわけですが、それはちゃんと向き合った方がよいです。最初の子の場合は特に、妊娠から1歳までは他のことを犠牲にして、第1に考えましょう！

2人目以降は自分の体調も子どものことも、それなりには先が読めるので（読めないかも知れないということも含めて）予定もたてやすくなります。もちろん子どもによって大きく事情は異なるので、無理は禁物です。自分のことではない、という点を肝に銘じましょう。焦ってはならない、仕事はまた出来



▼窪田先生の日

6:30 起床組と 7:30 起床組がいて、どちらかと一緒に起きる。8:00 最後の小学生を送り出す前にできるだけ家事を済ませたい。

▲いつでもエネルギーにあふれている窪田先生

日中は審議会や委員会が多い。担当の人が頑張っていることについてい応えてしまう。読まなければいけないものをちゃんと読みたい。

普段 18:00 までに帰ることが目標。子供との話はしばしば盛り上がる。最近は「集団がどこまで大きくなれるか」という論点。

ようになりますし、色んな働き方がありますよ。**高梨**…なるほど、そういうところは女学生の皆さんのためになりますね。

窪田…男の人も分かってあげなきゃダメですよ！

高梨…すいません（汗）

やりたいこと、やるべきこと

高梨…話を交えて、皆が気になっているのはどうやらもっと仕事ができるのかということだと思ふんですが、やりたいこと・やらなければならぬことがありすぎる時にどうするなどのコツはありますか？

窪田…えー（笑）やりたいことがしぼりきれないってことですよ？

大学で運動会に入るときに先輩が、2つまではできるよ、とおっしゃっていたのが印象的で、その後もそんな感覚でした。しかし最近は、1つしかできないという想いです。

大体のことは周りの人と一緒にやっているわけで、その方々との連携や一体感が重要だと思います。一方で、1人でやっていることは、よっぽど注意しないと後回しになりがちですよ、うちの研究室は皆そんな傾向にあるのでは…（自戒をこめて）気をつけましょう。

高梨…仕事の振り合いみたいなことですか？

窪田…近いですね。

学生時代

高梨…そういう窪田先生は学部生・院生時代はどのような生活をおくっていましたか？反省はありますか？

窪田…学部生時代は、2つのことまではできる、という信念のもと、テニスともう一つ（ご想像におまかせします）をやっていました。

院生時代は、研究室中心の生活でした。同期が楽しい仲間だったので一緒にあちこち見に行ったり、自分の担当だった佐渡島相川に長逗留したり、ハーバード大学でのWSに参加したり、エアエステでサンパウロを拠点にブラジルを2ヶ月旅したり。4年の後期から研究室に入り浸って、世界中からの先輩方と話してきたことは今でも財産です。しかし振り返ると、もったいないことをしたなとも思います。査読論文を書くなんてこれっぽっちも思わなかったし、行き当たりばったりでしたな。

現役の皆さんには、2年間の大らかで大きな構想と、半年位の明確な到達目標を両方立ててもらうと良いと思います。

高梨…話をお聞きしていると窪田先生は昔からアクティブで通底するモチベーションの源泉がありそうな気がします。どうですか？

窪田…どんなモチベーションで動いているのかは自分でもよくわかりませんが、公害問題の不条理さはずっと気になっていて、高校生のころに都市工学という分野を知りました。技術を通じて社会に貢献したいと思っていたので（かなり優等生で自分でも驚きますが）、そこからは迷いがなくなりました。当時は環境工学を考えていたのですが、計画的もしくはデザイン的なアプローチに魅かれるようになって今に至ります。

ところで自分の良いところを挙げるとすると、有り難い場所に居るという実感を自覚できる点ではないかと思っています。都市デザイン研究室の准教授という職位はおそらく最高に心地良いです。西村先生やそれまでに関わってきたメンバーが心血を注いで築いてきた研究室です。ここにてモチベーションなるものが沸かない人はいないと思います。

後は2人目の子供を産んで博士論文を書いていたときに専業主婦のように家に長い間いるのは合わないかもと実感できたこともあります。

高梨…それはすごく共感できます、僕も浪人時代暇だったのが合わない気がして大学から忙しくしてました。

研究室の新設について

高梨…さて、そういう中で新しい研究室を立ち上げるということになっているのですが、どういうことがしたくて立ち上げるのですか？

窪田…なぜ「都市デザイン研究室」から出るのかという問いに対しては、明確に整理して説明できるようなことでもないのですが、社会連携講座「復興デザイン研究体」の設立の流れにのって、というのは、消極的ですがもちろん非常に重大な理由です。積極

的には、小さな研究室ならではの敏捷性や交流密度の高さを実現しつつ、突発性／進行性リスクを根底に据えた地域デザインを実現したいと思っています（ところが、Laboratoryではなく、Studies Unitという言葉を使う背景です）。

高梨…新しい研究室の名前「地域デザイン」という名前はどういう思いがありますか？

窪田…「地域デザイン」という名前に至った経緯ですが、人の暮らしを大切にすること、それを改めて大切にしたいと思っています。そのためには、多様なスケールを扱わねばなりません。ご近所さんとか neighborhood という比較的狭い地区の単位も重要です。たとえば食糧生産地と消費地という関係を包含する広域圏のあり方も人の暮らしに影響してきます。そうした単位には主体も必要です。

また様々な要素が複雑に関係しあっていることで、状況が持続していることを考えれば関係性を解き明かすことも重要なテーマだと思っています。なぜなら微妙なバランスで成立している関係性があちこちで切れていっていること、それと呼応するように、環境の質が悪化していることが、現代の非常に深刻な問題であると認識しているからです。

つまるところ、復興デザインは地域デザインなくしては成り立たないし、地域デザインは復興デザインなくして成り立たないと考えています。

その意味で、人の暮らしの舞台としての「地域」を総合的に捉えるべく、日本語の「地域デザイン」という言葉はあまり悩まずに決めました。英語にするときには若干悩みました。直訳としては、Community Design や Regional Design ということになりそうですが、それでは上記のようなことが包含できないからです。あれこれ考えたあげく、当初は、Designed Territory in Relations Studies Unit というやたらと長い名前を考えていたのですが、Chris に「絶対短い方がよい」とアドバイスをいただきました（Thanks）、Territorial Design Studies Unit となりました。

高梨…最後に、先生にとつての「都市デザイン」、ってなんですか？

窪田…私が学生時代は「都市設計研究室」という名前でしたが、その後、「都市デザイン研究室」になつて、最近では学生の皆さんに「デザ研」という愛称で呼ばれていることに、実を言うと、当初は違和感がありました。語感がいいまいちゃありません？しかし考えてみれば、やはりデザインという概念の源に、「都市デザイン研究室」があるのだなという意味で、今ではびびったりだなと感じます。

そういう源泉から湧き出した水脈として「地域デザイン研究室」があって欲しいと思いますし、そうなるように努力したいと思います。

高梨…「ちいデザ」とか呼ばれるんですかね？

窪田…かわいくないですよ（笑）

高梨…今日はお忙しい中お時間をとっていただき、どうもありがとうございました。



▲笑顔の絶えないインタビューでした

にぎやかな研究室になりました！

A Start of a New Lively Laboratory!

取材：中村 編集：高梨

なんと今年は M1 が 12 人も都市デザイン研究室に入ってきてくれました。バックグラウンドも様々な彼女らに自己紹介と他己紹介を行ってもらいました！もう皆の名前を覚えましたが？



いまがわたかね
今川 高嶺

①千葉県出身→京都大学 ②全国規模の貨物輸送ネットワークを用いた新幹線貨物輸送の研究をしました。③最も大きな理由は、パソコン上でシュミレーションするだけではなく、実際に地域の人と関わりながらまちづくりを進めていくという姿勢が素晴らしいと思ったからです。④ベタですが、哲学の道です。ちなみに善の研究を読みながら歩くと普通に落ちます。⑥壊れたラジコン

⑤環境適応能力が高い！内部の人かと思いました(笑)話やすくて誰とでも仲良くなれる雰囲気がある。(李→今川)



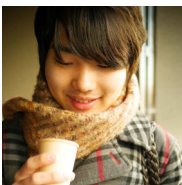
りみさ
李 美沙

①千葉県我孫子市
②千葉県大網白里市にある不動産会社を事例としてコミュニティビジネスの実態に関する研究を行いました。
③実際の街に出て学んだり、得たものを自分たちでカタチにしたりする機会の多さに惹かれました。研究室の活動に積極的に関わりたいです。
④谷中ぎんざ あの狭さと人のにぎわいが好きです。
⑥うさぎになりたいカメ 色々とノロマなので

⑤落ち着きがあって、女の子らしい。一緒にいると安心できて、どこでも行ける気になれる。(笑)(森川→李)

⑤おしゃれで、クールワインとか好きそう。(今川→柄澤)

①東京らへん
②都市に影の部分が少なくなってきたと考え、死者や自分に想いを馳せるストーリーを設計しようと思いました
③デザインとはなにか考えたいです
④御茶ノ水ワテラスを囲む坂道
それぞれの地形と雰囲気があり、緑や路地がうかがえる
⑥納豆とあらいくま



からさわ ゆきと
柄澤 薫冬

⑤実は某予備校に通っていた頃に一度会っていたそうです。全然覚えていなくてごめんなさい…(益邑→森川)

①千葉大学工学部建築学科②歴史的町並み保存・住宅地に取り込まれた卸売市場について③理由：実践的な様々なプロジェクトを行っていた為。やりたいこと：研究室の方々ははじめ様々な人と関わりながら、実際に現地に赴き、まちづくりを学んだり実践的なものを造りたい。④古い町並みなどにある細い道理由：どこにつながっているのか、わくわくしながら歩けるから。⑥サルエルパンツ



もりかわ ちひろ
森川 千裕



しばた あやか
柴田 純花

①福井県福井市／福井県立藤島高校／東京大学
②卒業設計「在郷でおりなす まち庭」(対象地：福井市東郷)
③空間の設計・研究をしたくて
④藪下通り(千駄木)／左右の坂をみながらゆっくり歩ける道。根津神社から北上するのが散歩コース。
⑥かびばら

⑤よく、ぼ～っとしている・草が好き・果物も好き・すうすう・もっしゃもっしゃ・ちゃらい。(柄澤→柴田)



ますむら あきのぶ
益邑 明伸

①東京大学工学部都市工学科 ②卒業設計のタイトルは「小さな偶然が見える“ぐるり”を変えていく一大都市における不可避な対話の方法の提案」でした。③空間設計と復興、東京の開発を考えたいと思ったからです。④できそうでできない都市計画道路。将来道路になる場所の様々な使い方が面白い。初めて通った道で、もしかして都市計画道路になる場所？と気づいた瞬間が嬉しい。⑥たぬき、ですかね。

⑤我が学年の都市ギーク。建築や都市に関する小ネタをたくさん提供してくれる、やさしさやゆるさを合わせ持ったやつです。(福永→益邑)

⑤真面目。一直線。だけどなかなか天然。トーマスみたい。(柴田→高橋)

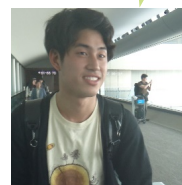
①東京都(私立錦城高校／横浜市立大学)
②内藤亮一の都市不燃化に対する主張と横浜市の防火建築帯造成に関する考察
③以前から憧れの研究室でした。これまでの都市の歩みを考えた上で、その中から何を残すことで様々な意味での今後の都市の成長に活かせるのか、2年間通して考えていきます。
④坂のある道 ⑥ごまあぶら



たかはし しゅん
高橋 舜

⑤チャラそうな見た目とは違って思慮深く、グループだと周りを見て上手くまとめてくれる。普段はよく寝るイメージ。(羽野→福永)

①神奈川県横浜市
②東京の貧困問題を都市的に捉える
③たくさんプロジェクトが魅力的に感じられた
④普段よく使う道に一番愛着を感じます。
⑥サル



ふくなが ともき
福永 友樹



たきざわ のぶゆき
滝澤 暢之

①兵庫県西宮市／灘高校／東京大学 ②卒業設計では三ノ宮駅とその周辺を設計しました。③理由：窪田先生や黒瀬先生をはじめ、演習などでお世話になったデザ研の方々の人柄に惹かれたところが実は一番大きいです。やりたいこと：二転三転してまだちゃんと定まっていなくても、地域の人の視点に立って都市を考えていきたいです。④・御堂筋(大阪市)：世間でよくイメージされるコテコテの大阪とは異なり、中央4車線+両側側道各1車線に4列のイチヨウ並木やブロンズ彫刻が並ぶいかにも目抜き通り然とした風格や、その6車線道路を南向き一方通行にしてしまうあたりに大阪市の近代都市計画の特色がよく現れていて面白い。・亀ヶ谷坂切通し(鎌倉市)：鎌倉七口のひとつ、まさに山に囲まれた鎌倉に北から入るためにかつて通された道といった雰囲気が漂う空間でそれだけでも十分“萌える”んですが、単なる史跡としてではなく今でも歩行者や二輪車が通る生活道路としてしっかり生きている点が非常にポイント高いです。⑥あまりに思いつかなさすぎて動物占いに手を出したらペガサスでした。

⑤以前から滝澤君の話を後輩づてに聞いていたのですが、実際に会ってみてとてもフランクな人だない印象を抱きました。(高橋→滝澤)



はの あきほ
羽野 明帆

①愛知県犬山市
②神田の老舗立地とその役割
③自分のバックグラウンドを生かしたかったから。都市の復興と減災について、デザ研という立場から考えたい
④地元の神社の参道、目の前の展開が予想できないから
⑥猫、ドアストッパー

⑤頑張り屋さんで明るく、頼れるお姉さんって感じです！パッションを持って研究に取り組む様子は尊敬しています。(中村→羽野)

⑤学部時代アメフトに打ち込んできたというだけあって、とにかくまっすぐで情熱的な好青年。彼の描く都市の絵には見ている側を何かわくわくさせるような夢があってすごく好きです。(滝澤→中島)

①埼玉県川越市②高速道路と都市の連動的な更新について、設計提案を行いました。③先生方や学生に魅力的な方が多いと感じて。プロジェクトに精力的に取り組みたい。④北浦和駅から母校・浦和高校への通学路。思い出が張り付いている道っていいですね。⑥「お前は鰐だ。泥にまみれるよ。」(漫画 SLAM DUNK より)



なかじま けんたろう
中島 健太郎

⑤ザ元気で感じの女の子です。他学科から新しい風を研究室に吹き込んでくれるのではないのでしょうか。(中島→中村)

①鹿児島②法学部第2類(公法コース)でした。ゼミでは、抗告訴訟の訴訟要件の1つ「処分性」の解釈について調べていました。③私は研究室というものに入るのが初めてなのですが、メンバーや先生が話しやすい人が多く、安心感があったからです。④地元鹿児島の甲突川沿いの道が好きです。川沿いが公園で桜並木が続いており、その木陰をサイクリングするのが気持ちがよいからです。⑥ひつじ



なかむら ななみ
中村 奈菜美

マガジン編集部の新体制

今回も都市デザイン研究室マガジンを読んでいただきましてどうもありがとうございます、新しく編集長になりました M2 の高梨遼太郎と申します。

ご報告ですが、今年度から研究室のウェブサイトが新しくなったことに合わせて、普段のプロジェクトの報告などはウェブサイトに掲載し、紙媒体のマガジンは毎月最終火曜日の月刊発行に変更しました。位置づけとしましては主に研究室外の方に向けての報告をウェブサイトで行っていき、紙媒体では研究室内部を主な対象に、PJ 毎や学年毎などに分かれてしまいがちな環境に横糸を通していくことを目標にします。具体的には今回のようなインタビュー記事によって互いの都市に対する思いや研究内容で影響し合ったり、PJ 毎で悩んでいた共通の課題に対して勉強会・座談会を開催したり、就職先を悩んでいる生徒のためになるように直接 OBOG 訪問に出向いたり、いろいろと考えています。

研究室内での情報交換の活発化はマガジン設立の理由であり、マガジンの目的です。古きを残しながらも新しい挑戦を積み重ねていき、読者にとっても編集部にとっても、より良いマガジンを目指していきたいと思いますのでウェブサイトと一緒に変わらずご愛読いただけますと幸いです。



▲新マガジン編集部。前列が M2、後列が M1 です。

Information

4 月のウェブ更新

神田まち歩き報告
佐原現地訪問
三国プロジェクト始動！
ルンビニ PJ 明日香村現地訪問
2013 年度プロジェクト報告会開催
研究室新歓コンパ
留学生コーナー Dastid Ferati
是非ご覧下さい：http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/

5 月の予定

5 月 1 日	神田学会 MTG
5 月 1 日	清水日の出地区ワークショップ
5 月 9 日～ 12 日	3 年演習開始
5 月 19 日～ 21 日	三国祭調査
5 月 23 日	第二回研究会議

＊ 編集後記

高梨 遼太郎

いつかのマガジン会議で「マガジンはこうあるべきだ」と大口叩いてから編集長をすることになりましたが、やはり新しいことをするのは難しいですね。先人の偉大さを感じております。ですがインタビューは大変楽しく、これからも自分の興味持つ分野で何人か行っていきたいと思っています。ただ話が盛り上がりすぎて終電を逃してしまうようなことはもう無いよう気をつけたいです。(反省)